

テーマ

子どもが「塾をやめたい」と言ってきた・・・
どうすればいい？



エピソード

ある日、中学校2年生のじゅん君が、お母さんに
「お母さん、ぼく、塾をやめたい・・・」と言ってきました。1年生の夏休み
明けから塾に通いだし、成績も、前よりも少しずつ良くなってきている
矢先の一言。

ワーク1

あなたなら、その時、じゅん君にどんな言葉をかけますか？

ワーク2

その言葉を聞いて、じゅん君は、どんな気持ちになるでしょう。
じゅん君がやめたい理由として考えられることを書いてみましょう。

じゅん君の気持ち

やめたい理由

話し合いの後に、ワーク3をお書きください

ワーク3

これから、子どもが「～をやめたい」と言ってきたときに、気をつけて
いきたいことを書きましょう。

ポイント

- 子どものマイナスの言葉の中に
ポジティブな言葉を見つけ出して返す♪
- 子どもの言葉の背景に目を向ける

資料

○ポジティブな言葉を使う

「お母さん、ぼく、塾やめたい。」急に子どもから言われると、どうしてもその理由を聞きたくなくなり「なんで塾やめたいの」「塾やめたらもっと成績が落ちて…」となってしまうことが多いですね。子どもから出てくるマイナスの言葉「やめたい」という言葉を、親も何度も使ってしまうと、負の強化になり、もう絶対「辞める」ということになります。「塾に行くようになって、成績が良くなっているけど、どうしたの。」など**ポジティブな言葉**を使いましょう。

○言葉の裏にある本音を出せる道をつくっておく

また、子どもから「いやだから・・・」「いきたくない・・・」などの返事を聞くと、親はよけいに塾に行かせたい気持ちが強くなり、今以上の強い口調や正論で、**子どもの逃げ道を塞いでしまう**返事につながります。また、今以上に子どもはやめたいという気持ちを強化させていくでしょう。子どもが**本当の気持ちを親に伝える**ことができず、今より塾がいやになることだけでなく、勉強が嫌いになってしまいそうです。

○子どもが悩んでいる気持ちに寄り添う

では、どのようなコミュニケーションをとればよかったですでしょうか。罰やごほうびなど外発的な動機づけではなく、あくまでも子ども自身が目標などのために「自分で判断し行動している」と感じさせることが大切です。つまり、ゴールは**子どもが自分自身で納得して塾に行く気持ちを高めていく**ことです。子ども自身が**悩んでいるという気持ち**（行きたくないけど、行かなくては・・・）に**寄り添う**こと。それには、親自身がその時々の子どもの様子や言動を冷静に受け止めていく**冷静さと余裕**によると思います。

○背景に目を向ける

やめたいという言葉が出るまでの背景には、**子どもなりのいろいろな理由**が絡まっている場合があります。友達関係、学習状況、先生との関係、家庭状況、疲れなど・・・。子どもの気持ちを**受け止め、共感**しながら、子どもの**心の理解**に努めましょう。